

第2回中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会 会議録

■日時：平成28年11月4日（金）午後6：00～午後8：00

■場所：四日市商工会議所 3階 大会議室

■出席者：

奥野信宏委員長、有賀隆委員、伊藤美香委員、岡田邦彦委員、岡田博子委員、種橋潤治委員、中井孝幸委員、福永智子委員、藤井信雄委員、葛西文雄委員

■議事：

- 1 4つの導入機能についての基本的な考え方について
- 2 建築可能面積・ゾーニングイメージについて
- 3 周辺の公共施設や道路からの動線・回遊性の検討について
- 4 ランドマークとしての魅力的な空間形成について
- 5 新図書館に関する検討について
- 6 その他

■内容

- 1 4つの導入機能についての基本的な考え方について
- 2 建築可能面積・ゾーニングイメージについて
資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・最初に4つの導入機能について、ご意見があればお伺いしたい。

D 委員

- ・導入機能の中でワークショップ機能なども盛り込まれているが、新しい施設は図書館が中心だと考えてよいのか。

事務局

- ・面積的にも図書館が中心だと考えている。読み聞かせなど図書館で行われる様々な活動は図書館の中の施設でできるものもあるだろうし、一方でホールを使うような少し大きな活動の場合は、多世代交流・ワークショップ機能の方で行うことをイメージしている。他都市の複合施設をみても、図書館と他の機能と相互利用により補完しあうことでプラスの効果を出している。

D 委員

- ・全体的にスペースが少し狭い気がするので、同じような機能が重ならないようにしていただきたい。総合会館にも貸室があり、同じようなスペースであれば必要ないと思う。

C 委員

- ・方向性について基本的には賛成だが、ワンストップで全て行うのは欲張りすぎだと思う。拠点施設ができることで周辺市街地への波及効果をもたらすような考えが必要で、例えばカフェについては民間にもできるので、周辺に同じような機能ができてくるというイメージがあるとよい。
- ・四日市のまちについて、公害研究を専門としている宮本憲一先生と先日お話しする機会があり、四日市は海がもっと市民に感じられる街にしなければならないと言われていた。行政からの誘導は難しいかもしれないが、民間活力により海を身近に感じられる仕掛けをするというイメージを期待されていた。

B 委員

- ・前回いただいた資料では候補地が4つあるという説明だったかと思うが、今回の資料では候補地が1つで話が進んでいる。そのあたりはどのようにして決まったのか。

事務局

- ・4つの候補地については、昨年度の市の調査で中心市街地活性化をにらんだ形で拠点施設をどの候補地に整備するかを検討し、市の内部や議会を通じて市役所の東側の敷地を活用することに決めた経緯を前回の委員会でお話しさせていただいた。

B 委員

- ・市役所東側の広場を使って新しい施設を検討するというのが、市民にあまり伝わっていないと思われる。情報発信について、どのように取り組まれるのか。

事務局

- ・市としては、昨年度の中心市街地活性化方策検討会議も、その後の予算審議も公開の場で行っており、市のホームページにも載せて情報発信している。予算については、年度当初の予算編成の場合は数多くの事業がある中で情報が埋もれてしまう可能性はあるが、今回は6月の補正予算に上程したため、事業が少ない中で注目された案件だと思う。もっと積極的な広報が必要だというご指摘だと思うので、今後会議を重ねる中で基本計画がまとまってきた段階でさらなる情報発信に努めていきたい。

I 委員

- ・ゾーニングイメージについて、滞在型図書館として何層くらいを想定されるのか。他にも、多世代交流機能であれば展示スペースや音楽練習室などが資料でも紹介されているが、例えば中高生の学習スペースは図書館に入るのか、あるいは多世代交流機能に入るのか、あるいは情報発信機能はもっと狭くていいのではないかと、など細かい点で幾つか気になる。とはいえ、図書館がどのくらいスペースを確保できるかが最も気になる。

委員長

- ・そのあたりは、後ほど予定している新図書館に関する議題になると思う。

事務局

- ・委員長におっしゃっていただいたように、図書館についてソフト、ハードも含めてどういうものが必要かを議論した上でどのくらいのスペースが必要かを決めていきたい。

J 委員

- ・今回のポイントは、資料で示した4つの機能イメージの円について図書館を最も大きく示していることが物語っていると思う。先ほど図書館について幾つかご発言があったが、これについては資料をわかりやすく整理しようとしたため、機能のすり合わせが若干できていないからだと思う。滞在型図書館を核として他の機能がどのように取り巻くのか。あるいは、周辺への波及についてご意見があったが、今回は近鉄四日市駅とJR四日市駅に挟まれた市役所周辺につくるわけだから、少子高齢化、地方創生などの課題がある中で、面白みのある拠点施設をどのように作りこむかがテーマだと思う。案がなければ意見が出にくいと思うので今回のような整理をさせていただいた。様々な視点から意見を出していただきたいと思う。

委員長

- ・今回は具体的な検討を行う最初の会議であり、遠慮なくどんどん意見を出していただければと思う。

A 委員

- ・4つの導入機能について具体的に方向を決めていくのは次回だと思うので、その点を踏まえた上で意見を申し上げます。今回の資料は、オーソドックスなゾーニングで資料として過不足はないと思うが、一方で目新しさがないとも言える。延床面積 13,000 m²、7階と規模はそれほど大きくはない。重要なのはどういうアクティビティが行われるかということで、その点でいえば今回の資料では見えにくい。滞在型の図書館といっても、同じ椅子に長時間滞在するのか、場所を何度も変えながら図書館内にいるのかなどアクティビティは様々だと思う。蔵書数、来館者数などの具体的な想定も必要にはなるだろうが、もう少しどういう図書館を望むのかなどの議論が必要だと思う。

G 委員

- ・ゾーニングイメージについては、カフェがやや大きく見える。市民が入りやすくするのにカフェを使われているかと思うが、もう少しハード面で入りやすさを検討できるといいと思う。
- ・図書館については、近年は子どもが利用できるにぎやかさや、会話ができたり、出会いや交流が求められるようになってきてはいるが、大前提として従来からの静かな空間も求められている。にぎやかな場所と同時に静かな場所もつくる「音のゾーニング」に配慮し、様々な人の居場所として選択肢を作ってあげる必要があると思う。
- ・今回は機能をすべて詰め込んで7層とされているが、階段、吹き抜け部分の工夫によっては8層、9層になる可能性はある。その場合に、高層階に目的意識の強い機能を入れ込めばそれによしとするのではなく、1階から高層階まであがってきってもらうための工夫が必要だと思う。1階だけにぎわうのではだめで、館内全体でにぎわいを考える必要がある。

C 委員

- ・これから図書館のことを勉強していくわけだが、図書館内のスペースについてはもう少し柔軟に考える必要があると思う。蔵書をすべてここで解決することは難しく、ある内容の蔵書は別の場所に設けて取り寄せできるサービスも考えられる。

D 委員

- ・図書館をよく利用する立場としては、別の所に蔵書があり取り寄せに1週間かかる。せっかく新しく図書館をつくるなら新しい施設の中に蔵書を入れるようにするべきで、今の図書館と同様に一部の蔵書を他の場所において置くのであれば、これまでと同様に取り寄せに日数がかかり、利用者が納得しないと思う。

K 委員

- ・今の図書館の延床面積が 4,000 m²であることを考えれば、新しい図書館ではもっと大きい規模で、閲覧スペースも今の図書館が2,000 m²程度であるのに対して新しい図書館では1フロアだけでも1800 m²あるためゆったりとした空間が取れると想定している。市民のみなさんに楽しんでもらえる規模はあると思う。

D 委員

- ・ICTがテーマになっているが、今は本を手にとることができない状況になって来ていて、市内の本屋さんが閉店、あるいは縮小になっている。図書館は本を手にとることが基本で、できるだけ開架にし、ここが中央図書館になるので蔵書もここに収めていただきたい。図書館中心の建物と認識しており、建物全部を図書館にするくらいの気持ちは必要である。

F 委員

- ・新しい図書館の蔵書については、もう少し議論が必要だと思う。蔵書には高活用蔵書と低活用蔵書があり、低活用の蔵書をもつ必要があるのかどうかという問題がある。一方で蔵書が別の場所にあつて、頼んでから1週間かかる現状はもっとだめで、これは直ちに解消しなければならない。本館

とあさけプラザ、楠交流会館の3館を共通で利用できるようにし、夕方に取り寄せを申し込めば翌日の午前中には窓口に届くというようにするべきである。蔵書が増えるほど閲覧室のスペースがとられて狭くなることも考えられる。

D 委員

- ・市として図書館をどうしていくかという方針を先に整理していただく必要があると思う。

委員長

- ・図書館については議論が尽きないところだと思うが、時間が限られているので次の議題に移ってきたい。

3 周辺の公共施設や道路からの動線・回遊性の検討について

4 ランドマークとしての魅力的な空間形成について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

F 委員

- ・建物についてランドマークの資料が出されているが、デザイン的なことだけでなく環境対策が重要だと思う。全面ガラス張りにすると、デザインとしては良いかもしれないが、夏場に暑くなりすぎて、そのために冷房を効かさなくてはならなくなる。

G 委員

- ・回遊性の検討について、施設をどこに計画するにしても地方都市では7、8割の方が車で来られ、特に土曜日、日曜日に車を利用する。その時に駐車場の確保が大きな課題になると思う。一宮市には駅前に図書館を含む複合施設があるが、全館で駐車台数180台程しかなく1時間だけ無料であるため、車での利用者が減った。地方都市では子どもを連れて主婦層が車で動くので、主婦層の利用が最も減少した。豊田市では、2時間無料とし、市営駐車場だけでなく周辺の民間駐車場で利用する場合も2時間無料としている。四日市市全体を考えると、駅前とはいえみなさん車で来られるので、駐車場の確保についても検討する必要がある。

A 委員

- ・四日市市の重要な都市景観軸である中央通りを拠点施設にどのように活かすか。あるいは三滝通り側は図の縮尺から見て40m程度は接していると思われ、JR側からの視認性を確保して、都市景観を確保する大きなチャンスだと思う。今後基本計画やその先のプロポーザルの要件を検討していく上で、そのことをもう少し明確にしておいた方がよい。動線や回遊性も重要な視点ではあるが、そのポイントを設計者にどのように伝えていくのが重要である。
- ・公共側で整備しておくべきものとして、四日市市の公共街路空間が持っている既存ストックは他都市と比べても充実しており、新しい施設にどう活かしていくかという視点も重要だと思う。例えば、中央通りを裁判所側から歩行者が横断する時の位置と合わせて自動車の交通のための信号機の位置をどう変えるかなど、市役所周りの街路空間も一緒に考えるべきだと思う。回遊性や動線というより、むしろ市役所の周りをどうつくり替えていくかを検討するべきだと思う。

D 委員

- ・車いすやベビーカーでの利用を考慮し、駐車場を今回の施設の地下につくることはできないのか。

事務局

- ・面積的に13,000㎡の中で駐車場をとってしまうと、他の機能のスペースを狭くする必要が出てくるため、駐車場については既存の市営駐車場やくすの木パーキングなどを考えている。

D 委員

- ・車いすやベビーカーでは雨の時に屋根がないと利用しにくいので、通りにアーケードをつくるか地下からアクセスできるようにするなど、雨に濡れないで施設に行ける工夫をしていただきたい。

B 委員

- ・くすの木パーキングの利用は、女性の立場からすれば1人での利用は控えたい。

C 委員

- ・くすの木パーキングの運営は第3セクターが担っているのか。

事務局

- ・中央通りは第3セクター、国道1号は国であり、主体は別であるが、業務委託を受け、第3セクターが一体的に管理を行っている。

G 委員

- ・私は先ほどから利用者をいかに上層階へ誘導するかという視点で意見を述べているが、市役所の位置から7階だと海は見えるのか。海への意識は、上層階にあがって見えると高まると思う。

B 委員

- ・資料自体が急がれてつくられたという印象がある。どのような図書館にしたいのかというところから議論を始めていただいた方がよいと思う。

5 新図書館に関する検討について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

D 委員

- ・図書館の細かいことは教育委員会など市の中で決めていただかないと、方向性は決まらないと思う。

委員長

- ・図書館の中の細かいことは、みなさんの意見が出てきた段階で市の方で検討していただくことになると考える。

F 委員

- ・これから10年後、20年後といった図書館の将来像を考える必要があると思う。

委員長

- ・図書館の将来像は10年、20年経つと変わるもので、先ほどご意見があったように従来からの静かな環境を求める人もいれば、アクティブラーニング、ラーニングコモンズのようにおしゃべりしたり映像を映しながら利用する人もいる。ICタグなどの環境についても、私はもともと書庫に入るのが好きだったが、最近の本が雑多に置かれて機械式で書庫からすぐに本が出てくるので便利にはなったものの、昔のように本が整然と並べられて書棚を探すことがなくなってきている。

D 委員

- ・私達は司書さんにずいぶん助けていただいており、司書の役割も大事だと思うが、資料にはあまり書かれていない。

I 委員

- ・従来の図書館は文化、教養型の図書館だったが、これからは課題解決型の図書館ということが求められる。文化や教養だけでなく、生活の糧として図書館で学ぶというシフトが考えられている。基本となるのがレファレンスサービスで、市民向けのレファレンスサービスというだけだと消極的だと思う。「インターネットで調べてもわからなければ図書館へどうぞ」というくらいの強いメッセージ性をもってサービスを提供できると良いと思う。いい図書館はレファレンスサービスに力を入れている。

委員長

- ・インターネットで様々な情報が簡単に引き出せるようになったが、正しい情報ばかりとは限らないので、学生には情報が正しいかを確認するように指導している。そういう時には図書館へということ言えばメッセージ性があると思う。

B 委員

- ・帰ってきたくなる図書館、自然に親しめる図書館などと特徴づけして、さすが四日市と言ってもらえるような図書館になるといい。

I 委員

- ・図書館サービスの基本は来館者に提供することであるが、子どもの読書活動の推進については国が方針として示しているように、家庭、地域、学校というそれぞれのフェーズがあり、これらの拠点を公立図書館が担い、家庭、地域、学校を結ぶという役割がある。ある調査結果では、中高生の80%が公立図書館にも学校の図書室にも行かないそうで、塾や部活動で忙しい中高生が読書をするには学校と連携して進める必要がある。小さなお子さんであれば、保育園や幼稚園と連携して行う必要がある。そうすると司書の力が求められる。

A 委員

- ・幅広い世代がゆっくり楽しめるという点や開館時間に関連するが、大人が楽しめる図書館があってもいいと思う。新刊であれば本屋などが作家を招いて催すことがあるが、場合によっては一杯飲みながら、落ち着いた雰囲気の中で読書が楽しめる読書会のような活動があってもいいと思う。昼間は従来のような使い方がされてもいいが、大人が仕事終わりに飲みに行く代わりに図書館に行くということも考えられればと思う。

委員長

- ・内閣府の懇談会に参加した時に、千葉県で民間が運営する図書館の話聞いたが、まちなかに幾つか拠点があってボランティアの方が運営し、誰もが気軽に集まれるようになっている。

D 委員

- ・市が「まちじゅうこども図書館」という事業を展開しているが、作ったところで終わっているという印象である。

委員長

- ・四日市市の場合は行政ががんばって事業を展開していると思うので、NPOなどと連携して民間の力を入れるといい。

B 委員

- ・四日市には本に関わる人がたくさんいるので、選り好みせずいろんな方に意見を聞いていただければと思う。

G 委員

- ・図書館に誰が滞在しているのかをみると、実は学生、男性の高齢者、父親が1人の場合が多い。母親が家族連れで来ると滞在時間が短い。父親達は本を借りるのではなく、図書館で本を読んでいる。子ども達に手厚くするのは当然として、中学生になると途端に本を読まなくなる。学生については学校の中でつなぎとめるとか、父親には家族連れで来た時に図書館がよい環境だとパチンコ屋に行く代わりに図書館に来るようになる。時間の過ごし方をいろんな世代に提供することが重要で、四日市市にはコンビナートがあるのでもう少し働いている人向けのサービスがあってもいいのではないかと思う。ビジネス支援まで行くかは別として、多様な世代に時間を提供するという視点で考えてみたらいいと思う。
- ・もう一つは、学校との連携をもう少し積極的に考えてもよいと思う。全国の事例の中には、学校図書館に司書がいる所もあり、このような学校はよく本が読まれている。中学校になると図書館は昼間か放課後しか空いておらず、生徒は部活などで忙しくて利用しないというケースが多い。そうなると地域の公立図書館が読書を提供する必要があると思う。
- ・先ほどもお話があった夜の読書会というのがあるといいと思う。最近では個人でも始められる「マイクロライブラリー」という活動がある。一杯飲むのかまではわからないが、このような大人のサークル活動が幾つもできるような図書館がいいと思う。

J 委員

- ・多世代交流のねらいは、今までの図書館のヘビーユーザーだけでなく新規開拓もする必要があるということだったと思う。20年前にはフィットネスクラブに高齢者はほとんどいなかったが、今では昼から夜まで多くの高齢者が利用している。そうした時代の変化の中で図書館がどうあるべきか、30、40、50代といった脂の乗り切ったビジネス戦士がユーザーになってくれると、この場所で整備する大きな意味があると思う。図書館については教育委員会が所管となるが、施設全体では横断的な検討が必要のため総合調整を担う政策推進部を所管としている。素人と思われる発想でも面白いことができることもあり、夜遅くまで滞在してもらえるような施設づくりに向け、喧々諤々と意見交換をお願いしたい。

D 委員

- ・図書館が入るので、教育機関であるということをお忘れずに検討していただきたい。

委員長

- ・これまでの意見を踏まえ、図書館についての詳細な検討をするにあたっては専門的な知識が必要であり、時間もかかるため、ワーキングチームをつくって議論をしていただきたいと思う。

(異議なしと発言する者あり)

C 委員

- ・図書館のことについては、よく知っている方と素人では意見がかみ合わないと思う。委員長がおっしゃるようにワーキングチームの発足に賛成である。一つ申し上げると、図書館は教育機関であるとともに生涯教育の場であると思う。私も個人的にいろんな職業の方と集まって夜の読書会を行っている。図書館が「無料の大型貸本屋」と揶揄される時があるが、図書館はやはり交流の場であり、生涯教育の場であるべきだと思う。また「多世代交流」「滞在型」という言葉一つをとっても人によって多様なイメージがあると思うので、固定観念に捉われず議論を重ねるべきだと思う。

委員長

- ・本日は様々な意見が出たので、一度事務局の方で論点整理をしていただきたい。ワーキングチームは、本日のご発言を踏まえて、中井委員、福永委員、伊藤委員、岡田（博）委員、葛西委員にお願いしたい。ワーキングチームで、議論していただき、新図書館に関する論点の整理、教育委員会との摺り合せを進めていただきたい。

A 委員

- ・前半の9ページの動線に関して、計画敷地の南側の中央通りの歩道や緑地帯と、北側の広場のオープンスペースについては、拠点施設の用途がにじみ出していくイメージが必要で、計画対象としてぜひ位置付けていただきたい。オープンスペースで具体的なハード面での計画を立てるというより、活動を計画するという考え方である。計画建物だけで考えると周辺への波及が難しいと思われ、まちの「縁」、中間領域として、拠点施設と連携して活用できる場所としての位置付けが必要だと思う。そのうえで制約となる制度を整理し、どうしたら制約を超えられるかを検討したいと思う。

6 その他

次回の日程調整は、事務局より後日行う。